

文京通信

ふみのみやこ

文部科学省認可通信教育
放送大学東京文京学習センター
機関誌 No.3
平成29年1月発行



目次

なまぐさくない蛇として	客員教授 久 智 行	2
実験自主ゼミへのお誘い	客員准教授 奥 野 誠	2
学習センターからのお知らせ	東京文京学習センター	3
学園祭（茗荷祭）への期待	学園祭実行委員会会長 齊 藤 成 吾	4
クラス会活動と開催案内、会員募集	クラス会支援委員会委員長 中 村 由 美	4
サークル紹介	茗峰会 大 野 和 子	5
文京論壇	東京文京学習センター学生 北 村 周 治	5
学習センター周辺の歩き方	事務長 布 施 典 明	6
行事報告（28年8月～29年1月）		7
行事予定（29年2月～29年9月）		8
編集後記		8

なまぐさくない蛇として

客員教授 久 智行

医学担当。嘗て学問は哲法医神の4つで法医神以外の博士をPhDと記した。自然科学は哲学の1つとされ今もPhDと記す。だが今医学は自然科学の1つとされる。尚医療は法哲神も関係する。

死は法哲神でも医でも大問題の1つである。人を生物として扱うときヒトと記す。医療では人として診る事も必要と言うが、人もヒトとして生物であり自然の一員として謙虚に自省する事も必要で、法に人は従わねばならぬと雖も「何人も死んではならない」と国会で定めても、ヒトは死ぬ。

メントモリに2つの意味がある。死ぬから今を楽しめと、死ぬから現世の煩惱に惑うなど。小生は医師として患者の死に臨む時家族に「現代医学の限界」と伝える。再生医学が進めば死から解放されるのか、不死クラゲは自分自身か、単細胞生物の分裂は死か、道半ばの小生には分からぬ。

生物を遺伝子の乗物とすれば、自らは死ねども次世代に遺伝子が嗣がば生か。だが努力しても獲得形質は遺伝せず次世代に伝わらぬ。では何故学ぶか?放送大学の目的の一つに生涯教育がある。学ばず自らの感性のみを抛とするは傲岸不遜な井中之蛙。学んで且つ報酬が約束されぬにも拘わらず学びを継続する事が眞の努力ではなかろうか。他方で他人の承認を求める努力は腥い。況してや権力者に媚びるは権力を濫用するも同じ。売名でなく実績を究め、唯一途に努力を続け、精神的に疲弊し経済的に困窮した或る時、偶々神が微笑んでくれるかもしれない。死ぬ迄に間に合わぬかもしだれぬ。間に合えば幸運。間に合わずとも生きて学んだ軌跡が残る。死を覚悟しローマに戻るペトロは無駄死ではない。総てを伝えるには余白が足りぬ。亦、万人に理解され好かれる訳も行かぬ。

学生「先生、要するに『太く短く』ですね?」

小生「いや、僕は已年だからベルチャーウミヘビのように穏やかに暮らしたい。」

実験自主ゼミへのお誘い

客員准教授 奥野 誠

貝のエラの中で、纖毛は独特的な屈曲運動で水流を起こし呼吸を助けています。私はその纖毛の運動解析を皮切りに、纖毛とほぼ同じ構造をしているウニなどの精子の鞭毛で、その屈曲形成の仕組みや運動調節に関する研究をしてきました。その一方、最近では鞭毛や纖毛の運動が体の非対称性(心臓が左にあることなど)の決定や、その異常が様々な疾病と関連すること、さらに生物進化を論ずる上でも重要なカギとなることがわかつてきました。このように、自然科学の研究が思ひぬ方向に発展していくことは枚挙にいとまがありません。

このような自然科学の研究を根底から支えているのが「実験」です。F. ベーコンは自然は壊す(実験する)ことによってはじめて真理を垣間見ることができるのだと述べましたが、実験では何をどのように壊すかによって結果は異なってきます。それによって新たな発見も生まれます。一方、実験結果は誰がやっても再現可能なものでなければなりません。これらのこと学ぶために自然科学教育では実験が重視されるのですが、様々な制約がある授業科目としての実験では、再現性を納得することにはなっても(往々にして教科書通りの結果にはなりませんが)、「何をどのように壊すか、そこで何を発見するか」はなかなか学ぶことができません。自由な発想で実験を理解すること、これができるのは何かということで行き着いたのが自主ゼミです。現在、「ウニとあそぶ - 受精と発生を中心として」というタイトルで自主ゼミを行っています。ウニは受精や発生の実験をする上で優れたモデル生物です。ウニの発生を軸にしつつも、それに制約されず、自由な発想で自然を壊してみませんか。興味ある方はHP(<http://unizemi.o.oo7.jp/top-n.html>)も覗いてみて下さい。

学習センターからのお知らせ —講義室等の利用規則が変わります—

平成29年2月1日より、本学習センターの講義室等を学生の方が使用する際、手続きの方法等が変わります。

○ 主な変更点

1. 学生団体の登録について

本学習センターの講義室等を使用し、学生団体の活動を希望する者は、公認・非公認を問わず事前に当該学生団体の登録が必要です。

その際、学生団体の責任者、連絡担当者（本学習センター学生）を届け出なければなりません。この責任者・連絡担当者は、講義室等を使用する際の申込や、使用後の原状復帰の責任者となります。

2. 利用回数制限について

原則として、週1回、月4回以内を限度とします。

3. 許可できない活動および禁止事項の明確化について

- 宗教的な布教・勧誘等の活動を目的とする場合、及びその効果が宗教に対する援助、助長、促進、又は圧迫、干渉等になるような行為
- 違法、又は不当な行為を目的とする場合
- 営利を目的とした物品の陳列や販売
- 火気の使用及び喫煙

4. 使用後の原状復帰について

本学習センターの施設は、面接授業と単位認定試験での使用を第一の目的にしています。このため、使用後の原状復帰がなされていない場合、支障が生じますので、厳正に行ってください。机の配置、ホワイトボードの消去、AVデスクの設定などに注意して下さい。

なお、使用者は、故意又は過失により、施設、設備及び備品等を破損・滅失した時は、その弁済

義務を負います。

原状復帰を怠った場合は、一定期間、当該団体の使用を禁止します。

○ その他 (変更点ではありません)

1. 本学習センターの施設を使用できる時間等について

使用できる日：本学習センターの開所日

使用時間：(火)～(土) 10時から18時まで
(日) 10時から17時30分まで

※ 使用時間には、準備・原状復帰等を含みますので、ご注意下さい。

2. 学生団体が使用申し込みを行える期間は、使用日の2ヶ月前から3日前までです。

以上

[施設利用のための学生団体登録申請書]

敬愛大学東京文京学習センター施設利用のための学生団体登録申請書	
下記のとおり東京文京学習センターで活動する学生団体であることを申請します。	
□	
申請日	平成 年 月 日
団体名	
活動内容	
団体人数	
公認学生団体	<input checked="" type="checkbox"/> 東京文京学習センターの公認学生団体である
責任者 姓	
氏名	
学生番号	
住所	〒
電話番号	
メールアドレス	携帯電話
連絡担当者1 姓	
氏名	
学生番号	
住所	〒
電話番号	
メールアドレス	携帯電話
連絡担当者2 姓	
氏名	
学生番号	
住所	〒
電話番号	
メールアドレス	携帯電話

※責任者・連絡担当者のいずれかが、東京文京学習センター所属の学生であること。

学園祭（茗荷祭）への期待

—より地域に根差したものに—

学園祭実行委員会会長 齊藤 成吾

今年の学園祭は10月9日(日)&10日(祝月)の両日、学園祭実行委員会(東京文京SC・学生サークル・同窓会の三位一体)主催で開催しました。学園祭では昨年の反省を踏まえ、多目的講義室1(地下1階)をより有効に活用しようのことから、多目的講義室を前室・後室の二つに分け、前室を各サークル活動紹介、後室をあそなろ会活動展示室に分割、他サークル及び同窓会等活動展示室は2階に集約した形で実施しました。参加数は14(サークル・同好会13+同窓会1)でした。

顧みて、学園祭は昨年同様のものでしたが、今年の2日目は、講演会「放送の仕事で学んだこと」(佐治真規子先生・元放送大学学園アナウンサー)の他、文京区在住の諸留和夫自治会長による「マジックショー」(地域施設などで手品ボランティアとしてもご活躍)、同窓会会員・上野英樹画伯による「馬九頭の墨絵、早描きショー」(横6mのキャンバスに墨を使って即席で馬の群像「うまくいく=馬9頭」を描くという見ごたえのあるもの※写真7ページ)など大好評でした。

上野英樹画伯(文京区在住、東京都民美術展運営会の評議員)は、少年期から馬に興味をもたれ、30歳頃から馬をテーマに描きはじめ、以後40年間色々な馬を探して日本のみならず、多くの国を旅し、イタリアでは個展を、またモンゴルでは現地人と生活を共にしながら馬を描き、「輪廻転生」というテーマの絵を描かれたという。いずれも地域在住の多くの方々に来てみていただきたいものであったということが出来ましょう。

今後の学園祭がより地域に根差したものにしていくためには、まずは地域在住の多くの方々にきていただける、その工夫と努力を惜しんではならないことを痛感させられました。

クラス会活動と開催案内、会員募集

クラス会支援委員会委員長 中村 由美

クラス会は入学直後から学習が軌道に乗るまでの手助けや、強いては学位修得率の向上などが目的です。2016年8、9月のクラス会は、岡野所長が学びのサポートと14名の東京文京SCの先生方を紹介され、11月のクラス会では、魚住孝至教授や奥野誠客員准教授をお招きしました。

ところで、大学教育はFormal Curriculumだけではなく、例えば、学生同士の相互作用を図る授業外活動などの Hidden Curriculum(隠れた・潜在的カリキュラム)も重要です。大学の現場では、学生-学生、学生-教員、学生-職員との関係からも学ぶ機会は得られますが、とくに学生間での情報共有や仲間意識の醸成、また、学びの内発的動機にも繋がるようなクラス会活動は Hidden Curriculum であるといえます。

クラス会創立から8回程度開催しましたが、2017年度より3年目を迎えます。継続的な談話の場を、皆さまの主体的学習にお役立て下さい。

〔16年度年次クラス会開催のお知らせ〕

(日時) 2017年2月12日(日) 午後

(会場) 東京文京学習センター多目的講義室1

〔15年度年次クラス会開催のお知らせ〕

(日時) 2017年2月26日(日) 午後

(会場) 東京文京学習センター講義室3

(懇談) ※16年度、15年度とも、

第2学期単位認定試験、平成29年度第1学期

科目登録の情報交換、教員スピーチ(計画中)、他

〔クラス会会員募集〕Email classkai@ouj.ac.jp

件名「クラス会入会希望」と明記の上、本文に、入学年度と前期・後期、学生番号、氏名、所属、学生の種類、メールアドレスを記載してください。

サークル紹介

「茗峰会」

大野 和子

今年の茗荷祭は、同窓会の皆さまを中心に各サークルの方々の頑張りもあり大変楽しい学園祭でした。茗峰会も日ごろの活動を、知って頂きたく思っておりましたが、今回は残念ながら参加出来ませんでした。

会の行事としては毎月の一回の山行も、年齢に合わせたハイキング程度登山から、健脚向けの日帰り登山とハイキングまた夏山縦走は、二泊三日の聖岳に行ってまいりました。12月は、忘年山行を行います。持参した食材を調理してにぎやかに忘年会を行います。下山後の温泉はかくべつです。

次の茗荷祭には、山の楽しみを多くの皆さま知つて頂ける様、参加致したく思います。

日光泣き虫山登山のテント泊



文京論壇

「セルロース溶解性とS T A P細胞」

修士選科生 北村 周治

セルロースの溶解はきわめて困難とされていましたが、20世紀末になって、濃度2.5モル／1のアルカリ水溶液に完全溶解することが発表された。こんな簡単な化合物の水溶液に、完全溶解するとは誰も予想せず、溶解機構の解明が待たれている。

著者は、疎水性のイオンクラスターが、セルロースの疎水性部分に接触し、ついで協同的な熱運動によりセルロースの疎水性部分へと浸透し可溶化するという溶解機構を考えた。

S T A P細胞の生成法として、損傷させた細胞を弱酸性のもとにATPの濃厚溶液で処理する方法が、このほど発明者により公開された。生命の存続の危機にあって、RNAへの転写機構を抑制していたなんらかの機構が解除され、細胞分化前の全能性を取り戻させる手法であると思われる。この抑制機構は、親水性の生命活動において解除されないように、疎水性の難溶性機構を持っているに違いない。この難溶性機構を解除するにあたり、ATPを主成分とする疎水性イオンクラスターが関与しているのではなかろうか。

S T A P細胞の再現性が困難であるとされているが、セルロースの例からは、ATP濃度と緩衝液のイオン種の選定が大きな因子となるはずである。夢のS T A P細胞を実現するために研究されている方々と、S T A P細胞生成とセルロース溶解機構との関連について議論してみたい。

文京論壇は、教職員・学生の意見発表の場です。ご自身の研究発表、調査報告、社会分析などジャンルは問いませんが、長さは800字程度にまとめて下さい。投稿先は、文京学習センター事務室宛にお願いします。

東京文京学習センター周辺の歩き方

事務長 布施 典明

東京文京学習センターの記念誌を昨年1月に発行して、今回で3号目になりました。

お昼休みなど、学習センター周辺を歩いているので、その紹介を・・・。

地下鉄丸の内線「茗荷谷駅」の改札を出て、右の横断歩道を渡ると、正面の「りそな銀行」で、左に曲がり、交番を右手に見ながら横断歩道を渡りきったら、今度は右に曲がって、そのまま歩くと、正面に「放送大学」、「筑波大学」と刻まれた正門があります。門から入り、そのまま進んだ建物に「東京文京学習センター」があります。茗荷谷駅を出て、ここまで約3分という立地条件です。なぜ、「茗荷谷」というのか、諸説あるようですが、元々この周辺は谷が多く、そこに「茗荷」が自生していた。というのが、有力な説のようです。

学習センターに隣接する正門の左手には「教育の森公園」があり、ご近所の住民の方が、憩いの場、身体を動かす場として利用しています。さらに年に数回、バザーや、防災訓練なども開催されています。



が運動したりしています。

さらに奥に進むと「文京スポーツセンタースポーツ館」があり、剣道、卓球、バスケット等を愉しむ方がいて、良く茗荷谷の駅を出る際に竹刀等を抱えた学生や、結構年齢の高そうな方をお見受けします。

公園内の道をさらに進むと道路に出て右に曲がると筑波大附属小学校があります。

今度は、学習センターの右手に進み、そのまま進むと坂になっており、「窪町東公園」という公園



内に入ります。この公園は学習センターのある敷地と道路「湯立坂」の間に小さな横幅の狭い公園です。坂を下り始めたところが、人工的な川になっていて、朝10時になると自動的に水が流れるようです。途中にベンチなどもあり、夏には日陰のため、涼をとる方も多くあります。桜の季節には、お花見をしている風景が、学習センターの事務室からも、よく見えて、実は学習センターの職員有志で、業務終了後にお花見をしたこともあります。

窪町東公園内の道「緑の小道」をそのまま川に沿って下っていくと「つどいの広場」、「こもれびの滝」があり、その先に「水車小屋」が見えています。この水車小屋は、実は公衆トイレです。その周辺に筑波大学の「占

春園」という庭園の入口があり、一般にも開放されています。さらに下っていくと「わんぱく池」、「水辺の広場」、「ちびっこ広場」、「ふれあい広場」となり、最後は千川通に出ます。

東京文京学習センターは、このように周辺を緑に囲まれた学習センターです。

皆さんも、お時間があれば、学習センターの近くを歩いてみませんか。新しい発見があるかもしれませんよ。

そのような発見が、皆さんの中の心の中で、何かプラスになることを願っています。

○ 行事報告

28年8月から29年1月にかけて、東京文京学習センターでは、以下の行事等が行われました。

1. 行事

- ・ 8月20日（土）～ 8月21日（日） 教員免許講習認定試験
- ・ 28日（日） クラス会（2015年度）
- ・ 9月14日（水） 学生研修旅行
- ・ 23日（金）～ 9月24日（土） 看護師資格取得単位認定試験
- ・ 25日（日） 卒業証書・学位記授与式
- ・ 10月 2日（日） 大学院入学試験
- ・ 8日（土） 入学者の集い
- ・ 9日（日）～10月10日（月） 学園祭（茗荷祭）
- ・ 15日（土） 面接授業開始
- ・ 11月13日（日） クラス会（2016年度 前期・後期）
- ・ 1月20日（金）～ 1月29日（日） 単位認定試験



研修旅行



卒業証書・
学位記授与式



学園祭（茗荷祭）上野英樹画伯 作「馬九頭の墨絵」

2. 公開講演会等

- ・ 7月16日（土） 14時30分 多目的講義室1
公開講座「かしこい高齢者施設の選び方」 講師 松宮良典 ふくろう法律事務所弁護士
- ・ 9月 4日（日） 14時 多目的講義室1
公開講演会「がんを知り、がんとともに生きる社会づくり」
講師 田城孝雄 放送大学教授 渡邊清高 帝京大学准教授
- ・ 10月21日（金） 19時 多目的講義室1
公開講演会「一柳慧・講演と演奏」 講師 一柳慧 作曲家・ピアニスト
- ・ 1月14日（土） 14時 多目的講義室1
公開講演会「ボブ・ディラン～音楽に文学を重ねた男～」 講師 佐藤良明 放送大学教授

○ 行事予定

29年2月から9月まで、東京文京学習センターでは、以下の行事が予定されています。

2月 12日 (日)	クラス会（2016年度 前期後期合同）
3月 4日 (土) ~5日 (日)	教員免許講習認定試験
25日 (土)	卒業式・学位記授与式 (NHKホール)
26日 (日)	南関東学習センター合同企画「第九演奏会」(東京藝術大学)
4月 9日 (日)	入学者の集い
15日 (土)	面接授業開始
21日 (金)	面接授業追加登録
5月 28日 (日)	クラス会（2017年度・前期）
6月 18日 (日)	卒業研究ガイダンス
25日 (日)	大学院修士課程 全科生入学志願者ガイダンス
7月 1日 (土)	大学院博士課程ガイダンス
21日 (金) ~30日 (日)	単位認定試験
8月 4日 (金)	面接授業終了
19日 (土) ~20日 (日)	教員免許講習認定試験
9月 16日 (土) ~17日 (日)	学園祭（茗荷祭）(予定)
24日 (日)	卒業式・学位記伝達式 (東京文京学習センター)
29日 (金) ~30日 (土)	看護師資格取得単位認定試験

ーお知らせー

本学習センター所属の全科履修生柴田令子さんが、本年4月にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

生前のご本人の意志により、ご遺族から本学習センターにご寄付（30万円）がありました。
なお、放送大学本部から、感謝状が贈られました。

編集後記

機関誌も、やっと第3号を発行することができました。年2回発行ですので、去年1月に第1号を発行して、まる1年がたったことになります。

この間、校正作業や、原稿集めも大変でしたが、それ以上に予算的に徐々に厳しくなってきています。でも、何とかがんばりますので、学生の皆さんも、もし原稿の依頼がありましたら、快く引き受けて下さるようお願いいたします。

発行者 東京文京学習センター 機関誌「文京通信」編集委員会
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1